

## 標準外科学

編集責任者 武 藤 輝 一 新潟大学教授  
相 馬 智 杏林大学教授

聖マリアンナ医科大学教授  
渡 辺 弘

従来の外科学の教科書は形式にと  
らわれたむしろ学術書色彩の強い  
ものが大部分であった。したがって  
これから初めて外科学を学ぼうとい  
う学生諸君のために書かれたという  
感じに乏しかった。

本書を通覧して、著者らが常に、  
「学生が学習の際、どんな所が理解  
しにくいのか、その所はどう説明すべ  
きか」という点に払われた苦心の程  
が滲み出ているのが十分に受取れ  
る。写真を敢て省いて、解りやすい  
スケッチと説明文、図表による説明  
などはその現れである。

しかもその内容は基礎的事項から  
臨床的事項まで、古いものから新し  
いものまで細大洩らさず網羅し、内  
容豊富で1冊の本には溢れるばかり  
の内容が盛られている。それは従来  
の外科学教科書上・中・下3巻の内容

のうち、良きものは取り、重複は避  
け、さらに新知識は取り入れて、そ  
れら3巻以上の内容となっている。

まさに、学生のために書かれた書  
物、学生のための書物というにびつ  
たりの外科学教科書であろう。内容  
の特徴的なものを2、3拾ってみよ  
う。

まず総論の第1に「外科的診断法」  
が設けられ、日常必要な部位の診断  
法がスケッチで説明されている。本  
書を読めば直ちに患者の診察にとり  
かけられるほどの巧みさである。図解  
外科診断学ともいえるであろう。

第2に「基本的外科手術手技」で  
ある。従来の基本手技の他に、静脈  
切開、気管切開、瘻疽、良性腫瘍摘  
出術など、日常的小手術の術式をス  
ケッチで図示してあり、一読して学  
生諸君でも、直ちに患者の小手術に

取り組めるほどで、また図解小手術  
学といえるであろう。

第3に腫瘍の章では、疫学の問題  
が詳しく述べられ、癌の早期発見や  
予防的な問題、さらに社会医学的な  
問題まで取り上げられている。

第4に総論でも同様であったが、  
各論ではとくに疾病の分類、症状や  
鑑別診断、主な治療方針まで図表で  
示され、理解に便利なよう配慮され  
ている。これは実地臨床には特に必  
要な点で、bed-side にも必携の書と  
なるであろう。それは handy な1  
冊本であることも要素となってい  
る。

最後に1冊の書物としては余裕に  
乏しい感じがしないでもない。余白  
が思ったほどには少な目の感じがす  
る。外科学上・中・下3巻の内容を  
1冊に納めるには、この程度の窮屈  
はやむを得ないかもしれないが、逆  
にそれが本書の特徴というべきかも  
しれない。とにかく、一推薦に値す  
る抜群のできの外科教科書であるこ  
とに間違いはない。

B 5 / 頁544 / 図417 / ¥ 6,500 / ㊦ 300 /  
医学書院刊